

## タイトル 「戦いごっこ」に対する2つの視点

- ・保護者間のトラブル体験から幼稚園に期待すること
- ・メディアの影響がもたらす問題に対して幼稚園に期待すること



## ■保護者間のトラブル体験から幼稚園に期待すること

わが子が付属幼稚園に入園して間もないころ、早い成長段階の男の子達が戦いごっこにあげられて、保護者同士でトラブルになりました。

ある一人の力が強い男の子が槍玉にあげられ、子供の暴力が、父親の体罰からくるストレスと母親の人間性によるものからくるものであると、もっばらの噂になりました。他方、幼稚園側は、成長過程の一つだとして受け止め、その保護者への対応は穏やかなものでありましたが、それが返って、やられる側の複数の保護者への不信感を買ひ、力の強い子と親に対する批判がエスカレートしたようです。

わが子は、電車遊びチームだったので、私は噂話を聞いたり相談されたりという立場で、正直、どちらの言い分が正当なのかも分からず、困惑していました。

当時は、あれこれ聞くたびに衝撃を受けていましたが、今回の講義を受け、乱暴な子の行動は、どんな子供でも、成長段階で起こり得る行動だという認識を持つことができました。今では、そのトラブルとされた子もすっかり落ち着いた姿を見るとなおさらそう理解することができます。

多くの幼稚園でも、年々、子供の怪我に対して過敏に反応する親が増えてきてので、対応が大変だと聞きました。それゆえ、このような典型的な事例の回避法を考えていくことはとても急務で必要なことだと考えます。そのためにはどのような方法があるのでしょうか。

「戦いごっこ」という遊びを通して、興奮するほどの楽しい感覚を覚え、度を越せば、自分が痛い思いをし、相手に痛い思いをさせれば怒ったり泣いたりして一緒に遊べなくなるということを実体験しながら学んでいきます。大きくなってから加減を知らずに怪我をさせる事件を考慮すれば、この感覚は幼児期に学んでおくべきとても重要な感覚だと思います。親たちの反応を避けるためにそのような行為を抑えてしまうようなことはあってはならないし、大好きな「戦いごっこ」の代替を用意してしまうことも子供にとっては気の毒な気がします。また、保護者への過敏な反応には、先生の「大丈夫です。」というメッセージも返って不信感を生んでしまうのだと思いました。

私は、保護者自身が学び、意識を変化させることが有効だと考えます。保護者を「共に教育について考え、子供を育てていく」という考えや姿勢に向ける良い方法を見つけていくことが大切なのではないかと思いました。

現代の保育にとって、人間関係を育てるということが、とても重要視されているということも保護者に伝えるべきだと思いました。仕事を持った経験のある保護者なら、多くは、人は一人では何もできない、仕事の中でも人と上手に付き合っていくことがとても重要だとの認識はあると思います。その点を喚起させれば、幼児期という人間形成の基礎を固める重要な時期に、いろんな人間関係のスキルを修得ことは、文字や算数のように個人でも学べるものよりも、幼稚園などの集団生活だからこそ実践できる、意味のあることなのだと実感できるのではないのでしょうか。

幼児が人間関係を学んでいく段階では、人と関わる時間を十分もつ必要があり、それを

実践すると、日々たくさんのいざこざやトラブルが起こります。保護者は、人間関係から起こるトラブルやいざこざの多い幼稚園の表面的な部分だけを見るのではなく、そこから子供が何を学び取るのかという深い視座を養っていくことが重要だと感じました。

自分が母親になってみて、つくづく、子育て業に関しての未熟さを実感しています。親も常に学び、成長するの必要を感じます。特に母親は男の子の資質・乱暴さに関する知識が乏しく、自分の経験や知識から判断してしまうと神経質になりがちです。それらを考慮し、子供だけでなく保護者も共に学び成長していける環境づくりの担い手として、幼稚園が大きな役割を果たすことができると期待します。

## ■メディアの影響がもたらす問題に対して幼稚園に期待すること

年長になり、わが子も電車を卒業し、「戦いごっこ」に参加するようになりました。息子の姿を通して、「戦いごっこ」という遊び自体は、とても魅力的で、表現活動としても魅力あるもの、成長に必要な要素をたくさん持っているものと実感しました。

そもそも「戦いごっこ」以外でも、多くの遊びの中には戦いの要素が含まれています。今流行っているカードゲームにも体こそ使いませんが、戦い本能を刺激しています。ベーゴマやペイブレードも戦いの縮図です。そう考えれば、紙の剣をもって体を動かし、痛みを知り、加減を覚えていく「戦いごっこ」とても健全で、必要な遊びの一つだと思います。

しかし私は、メディアからの影響が強すぎるという懸念があります。それには、以下のような問題が挙げられます。

### 1. 武器や乗り物の商品が溢れているという問題

今、放送されている仮面ライダーは、登場仮面ライダーがなんと4人もいて、4人分の武器や変身ベルトが発売されています。レンジャー系の話も絶えず変身したり合体したりするのですが、変身や合体をするために、発売されるオモチャのパーツもどんどん増えていきます。商品が発売するために、4人も仮面ライダーが登場するストーリーを作り、変身する必要がない場面でもあえて、合体や変身するようなストーリーを書いていると疑いたくなりますし、実際、作成現場ではそうなのかもしれません。

子供は戦い系の番組を見るたびに、そのコマーシャルから消費欲を刺激され、消費社会の虜になるよう仕向けられているのです。

そんな中、幼稚園の手作りの武器は、新鮮に感じました。確かに、「戦いごっこ」ばかりに重点を置いて準備してしまうのはよくないと思いますが、自分たちで武器や乗り物を作っていく楽しさを味わっていくことは、とても良い体験だと思いました。

これからの社会においては、メディアを批判的に捉えていくメディアリテラシーの必要性が着目されています。幼児期からも、コマーシャルに振り回されるのではなく、少しずつ、番組の意図を見抜く力を育てていく方法を考えていかなければならないと思います。それゆえ、手作りの武器や乗り物を作る楽しさを味わうと共に、それを使って、十分楽し

く遊べるということを体験していくことは、リテラシー教育にもつながっていくのではないかと思います。

## 2. 情報が人間関係を左右するという問題

昔は、子供向けの番組がそんなに多くありませんでした。それゆえ、仮面ライダー、デカレンジャー、ウルトラマンを知っていれば、殆どの子同士でイメージを共有できました。しかし今では、それ以外の番組が数え切れないほど放送されています。

そして、好きな情報、得意な情報ごとに仲良しグループが決まってしまうことが多々あります。好きな友達と遊ぶために、知らないキャラクターを我慢して1日演じなければならぬなんて姿も見られます。さらには、友達との絆を作るために好きでもないテレビ番組をみてしまうという現象も見受けられます。番組ごとに仲間わけができるので、グループは少人数になり、すべてのグループと遊ぶためには数多くの番組情報を取得しなくてはなりません。このように、現代の多大な情報量により、取得した情報が人間関係を偏らせてしまうという現象に私は大変不安を感じます。

そこで、幼稚園では、その幼稚園だけの新たなヒーローを作り出してしまうのも一つの解決策になるのではないかと考えます。商品売りつけられるわけでもなく、分かりにくいストーリーやたくさんの武器情報などを覚えなくてはいけないわけでもなく、皆で、そのヒーローの楽しい性格や格好良い武器などを想定して、そのヒーローのイメージを共有しながら遊ばせてみるのも良いのではないのでしょうか。「戦いごっこ」という遊びに代わるものを用意するのではなく、いろんな番組のヒーローが持つ要素を組み込み、皆でスーパーヒーローを作り出し、とことん「戦いごっこ」を深めることも幼児の学びにも有用なのではないかと思います。

映像技術の発展により、よりリアルで綺麗な完成度の高い映像が作られるようになりました。テクノロジーの発展により、巧妙で多彩なおもちゃが溢れるようになりました。しかし、それに反比例して、子供の想像力の入り込む余地がなくなってきています。幼稚園こそ、上記の2点の問題解決が可能な環境であると同時に、これからの社会問題を解決するための学びを深めることが可能な場であると強く思います。